

教育計画

校訓

本校の建学の精神は校訓にある。これを根底に据え、進取の気性に満ちた校風を振興する。

	創造	自己の価値に目覚める
真理	友情	友の琴線に触れる
	誠実	真心をもって大道を歩む

I 基本目標・重点目標

1 人づくりの基本目標

- (1) 高い志、豊かな創造力、開拓者精神を培い、国際社会で活躍するリーダーを育成する。
- (2) 育成する生徒像
 - ① 知・徳・体の調和がとれ、生涯にわたって自己の資質能力向上に努力する生徒
 - ② 幅広い教養と、多様な価値観を理解する想像力を有し、他者と協働して課題を解決しようとし続ける生徒
 - ③ 母国の文化と郷土を誇りに感じ、社会の発展に貢献する生徒

2 重点的な教育活動

- (1) 学習指導の充実
65分授業の特性を活かす工夫に努め、ICT 機器を効果的に活用して、基礎・基本を充実させ、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
自ら目標を定め探究する姿勢を身につけ、自己を鍛えることで身につく揺るぎない自信を育む。
- (2) 生徒指導の充実
日常の教育活動を通して生徒との人間的なふれあいの中で、自由と規律についての望ましい判断力や行動力を培い、社会人としての礎を築く。
学校行事、生徒会活動、部活動等様々なことに挑戦し、他人と協調しながら、困難なことに諦めずに取り組む心を育む。
- (3) 進路指導の充実
自らの将来の生き方の目標を掲げさせ、その実現に向けて3年間を通した計画的指導を充実し、進路実現を強く意識させる。
生徒個々の適性・興味・関心を活かし、能力と可能性を伸長する指導に努める。
- (4) 体験活動の重視
高校生ふるさと貢献・活性化事業、高校生就業体験事業、国際交流等の活動を充実させ、「体験教育」を通して生徒の社会性を高めるとともに、国際理解を深め多様性への寛容の心を育てる。
- (5) 情報の発信と評価
本校の教育活動について、HP・ブログの適時更新、中学校や地域・関係施設訪問等を通して積極的に情報発信し、保護者や中学生、地域の方々の理解と信頼を高めるための広報活動の充実を図る。
学校評価等、生徒・保護者・地域からの意見を収集分析し、教員間で共有することで教育活動の改善を図る。
- (6) 学校の組織力の向上
各分掌業務のマニュアル化と業務工程の文書化により業務内容の可視化を図り、属人化した業務を減らし、公平で効率の良い業務分担を目指し改善を行う。
すべての活動において、時代の流れを注視しながら様々な角度から学校行事や分掌業務の取捨選択を行い、教育効果向上と働きがいのある学校づくりに努める

II 教科指導及び生徒指導（特別活動を含む）の重点

基礎的・基本的な知識・能力・態度を育成するとともに、個々の進路希望や適性に対応する教育課程を編成し、各分野においてその具現化を図る。

1 教科指導

- (1) 基礎・基本の習熟を徹底し、知識・理解の確実な定着を図るとともに、それを活用した発展的な内容に果敢に挑戦する態度を養う。
- (2) 進路希望に対応した科目を充実させ、思考力・判断力の育成を図る。
- (3) 教科と学年の連携を密にし、指導の成果を高めることを目指す。
- (4) 公開授業、授業研究及び探究活動に関する研究を行い、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や指導力の向上を目指す。
- (5) タブレットの有効活用をはじめ I C T や視聴覚機器の効果的な活用を推進する。

2 進路指導

- (1) 指導目標
生徒のキャリア形成を支援し、生徒自らが、進路を適切に選択し、自己実現へ向けて努力するとともに生涯にわたって学習を続ける態度と能力を身につけさせる。
- (2) 学年目標
 - ア 第1学年
「総合的な探究の時間」を通じて、自己の興味・適性を考え、職業についての理解を深め、キャリアプランニング能力を養う。
 - イ 第2学年
積極的に大学見学、模擬授業の体験や大学在学中の先輩の話聞くことにより、希望する進路についてより詳しく研究させる。
 - ウ 第3学年
進路に関する的確な情報収集と日々の学習に対する努力により、生徒一人ひとりの希望する進路を実現させる。
- (3) 具体的取り組み
 - ア 将来の生き方を見据えた進路指導
1年の進路総合学習・2年の大学模擬授業・3年の進路説明会等を計画的に行う。
ホームルーム活動や担任との面談などを通して、生徒一人ひとりが自らの進路を深く考えるように指導する。
 - イ 生徒各自の学力を充実させる教育
生徒の学力向上の基本は日々の授業の充実であり、さらに平日の補習、夏季補習等の様々な取り組みを計画的に行う。
生活実態・学習状況調査を行い、自らの学習態度、生活の過ごし方をチェックし、各自の能力が発揮できるように指導する。
 - ウ 進路情報の提供
希望進路別説明会や学年別説明会を実施し、それぞれの進路目標に合った情報を提供する。
学年と連携して「進路通信」を発行し、必要な進路の情報を学年ごとに提供する。進路資料室で、随時資料を閲覧することができるようにする。
 - エ データ分析とその活用
模擬試験や生活実態調査のデータを分析し、その結果を生徒に還元すると同時に、職員研修を行い、進路指導の充実を図る。
 - オ 「OB講演会」の実施
社会人である卒業生による「キャリア講演」を生徒のキャリアに対する意識を高めるために同窓会の協力のもと実施する。年配の先輩である卒業生からの講演からは、一般論よりも身近な将来の方向を感じることができるようにする。

3 生徒指導

- (1) 生徒指導体制の確立
 - ア 全職員の共通認識のもと、組織を強化し指導体制の確立を図る。
 - イ 「他者理解と尊重」を視野に置き、ホームルームにおける指導体制を確立する。
 - ウ 事例研究等、教職員の研修を通して生徒理解を深めるとともに、指導力と資質の向上に努める。
特に SNS について生徒指導体制の充実と指導力向上を図る。
 - エ バランスのとれた部活動を展開する。

- (2) 基本的生活習慣の確立と定着化
 - ア 学校生活への適応を図り、学校への帰属意識を養う。
 - イ 基本的生活習慣を確立させ、自他の生命や尊厳に対する畏敬の念を養うよう指導する。
 - ウ 問題行動やその傾向がある生徒に関して、学校・家庭・関係機関との緊密な連携を図り、健全育成に努める。
 - エ いじめや暴力について予防、未然防止に努める。発生した場合には迅速かつ厳正に対応する。
 - オ 教科指導をはじめ学校の教育活動全体を通して生徒指導の推進を図る。
- (3) 安全で安心できる学校生活の維持
 - ア 校舎内外の設備・備品を定期的に点検し、防災避難救助訓練を効果的に実施する。
 - イ 平素から安全教育に努め、事故防止の徹底を図る。
 - ウ 地域や関係機関との情報交換を密にし、危険箇所情報や不審者情報の共有化を図り、実効性の高い危機管理体制を整備する。
- (4) 教育相談の充実
 - ア 学校、家庭、キャンパスカウンセラーの連携を密にし、学校生活になじめない生徒や心の問題を抱える生徒に対し、適切な教育相談を継続して行う。
 - イ 職員研修等を通して、教職員のカウンセリングマインドの向上を図り、教育相談機能を一層充実させる。

4 特別活動

- (1) 学校行事の活性化
 - 豊かな心のふれあいの場である学校行事を充実し、情操の陶冶と愛校心の高揚を図る。
- (2) 生徒会活動の活性化
 - ア 生徒相互の連帯感を育て、人間尊重の精神を体得させる。
- (3) ホームルーム活動の活性化
 - ア 確かな人生観と自己の目標を確立する基本的な学習の場として、魅力あるホームルームづくりを目指す。
 - イ 生徒一人ひとりの理解に努め、活発なホームルーム活動の中で生徒間及び生徒・教員間の信頼関係を深め、健全な生活習慣を身につけさせる。

5 課外活動（部活動）

- (1) 文武両道の精神
 - 各教科・科目、総合的な探究の時間、特別活動を柱としながら、部活動を通じて生徒相互の連帯感を育み、自主的・自発的な活動をすすめる。
- (2) いきいき部活動
 - いきいき運動部活動の趣旨を理解し、生徒の心身の負担を考慮しながら定期的な休みをとるとともに、効果的な指導を実践する。

6 図書館及び読書活動の活性化

- (1) 信頼される図書館
 - 利用者に信頼される図書館を目指す。
- (2) 委員会活動の活発化
 - 図書委員が自主的に活動できるよう支援し、図書館の運営、図書館報の編集・発行等を、図書委員会を中心に行う。
- (3) 読書習慣の定着
 - 国語科、学年と協力し、夏季休業中の課題をすることで、生徒が読書に興味関心をもち、習慣的に読書するきっかけとする。
- (4) 読書・学習環境の整備
 - 夏季休業の前期補習日程に準じて図書館を開館し、読書活動の活性化を図る。
 - I C T学習環境を整備し、図書とPCを併用した主体的学習活動を推進する。

7 人権・道徳教育

- (1) 他者への思いやりを育み、共に生きようとする広い心を養う。

- (2) 他者の人権を尊重することが自分の人権を尊重することになる人権共存への理解を深め、人権に関わる課題を主体的に解決する意欲や態度を育てる。
- (3) 学校の教育活動全体を通じて、生命と自然を大切に、正義を愛する心と態度を醸成し、社会生活における実践に繋げていく。

8 国際理解教育（県立高校魅力アップ推進事業を含む）

豊かな国際感覚と、国際社会で活躍できるグローバルな力をもつ人材を育成するために、留学生の受入れや、海外での体験学習の成果を学校全体で共有できるよう推進する。

- (1) オーストラリア リビング ウォーターズ ルザラン高校との相互交流を隔年で行い、授業中の遠隔交流や長期休業中の生徒の訪問、来日生徒の授業参加やホームステイ受け入れを積極的に行っている。また、交流の事前指導として「日本の文化」を学び、自国文化の理解を深めている。（令和7年8月に上記高校へ訪問予定）
- (2) 英語科を中心にグローバル時代に活躍できる人材育成を目指し、新たな大学入試への対応も踏まえて、実用英語検定の資格取得にも力を入れている。

【過去の交流記録】

平成26年11月	インドネシア（バリ州）国立ウブド第一高校・シガラジャ第一高校訪日受け入れ	生徒10名、副校長および教員1名
平成27年7月～8月	インドネシア（バリ州）国立ウブド第一高校、他2高校訪日	生徒6名、教員2名
平成27年9月～10月	インドネシア（バリ州）国立ウブド第一高校ホームステイ受け入れ	生徒6名、副校長1名教員1名
平成28年7月～8月	オーストラリア リビング ウォーターズ ルザラン高校訪問	生徒28名、教員2名
平成28年9月	オーストラリア リビング ウォーターズ ルザラン高校ホームステイ受け入れ	生徒15名、教員2名
平成29年8月	日独スポーツ少年団同時交流受け入れ	生徒6名、指導者1名
平成30年7月～8月	オーストラリア リビング ウォーターズ ルザラン高校訪問	生徒28名、教員2名
平成30年9月	オーストラリア リビング ウォーターズ ルザラン高校ホームステイ受け入れ	生徒15名、教員2名
令和元年8月（日本） 12月（台湾）	World Youth Meeting 参加 高雄市立瑞祥高級中學と本校生徒がチームを組みディベート大会に参加。	台湾より 生徒2名 本校より 生徒7名
令和元年10月～11月	県教育委員会主催 中国・広東省との高校生交流事業受け入れ	生徒1名、教員2名
令和2年～	緊急事態宣言等による新型コロナウイルス感染症対策のため活動中止。	
令和5年12月	オーストラリア リビング ウォーターズ ルザラン高校生 訪問	生徒9名 校長および教員1名

III 健康管理に関する指導の重点

健康と安全に関する教育をさらに強化し、指導力を向上させるため、職員の保健研修に努める。

1 健康教育の推進

- (1) 健康の大切さを認識させ、健康管理の習慣化に努めさせる。家庭と学校との緊密な連携のもと異常を早期に発見するために保健指導及び健康相談の充実に努める。
- (2) 教育相談日を周知徹底させ、教育相談の活用を促進する。さらに、個々の案件について職員間の情報の共有化に努める。
- (3) あいさつ運動を推進し、心の健康を図る

- (4) 生涯体育の基礎作りと体力の保持・増進のために部活動を活発化し、体力テスト等を積極的に実施する。

2 安全教育の徹底

- (1) 生命の尊厳と事故防止について、あらゆる機会を通じて徹底させる。
(2) 自転車通学者の増加に伴い、交通事故の防止のためのマナー向上に努める。地域住民の声を直接全校集会で聞く。
(3) 実験及び実習時の安全を確保するため、器具等の定期的な安全点検を実施し、安全管理と安全指導に努める。
(4) 熱中症対策を施し、注意喚起に努める。
(5) A E Dの使用法の講習会を実施し、非常時に対応できる体制を整える。

3 環境衛生の向上と美化

- (1) 施設・設備の安全点検を強化し、校舎内の換気と採光に留意する。
(2) 潤いのある環境づくりと美化に努めるとともに、情操教育の一環として、樹木や草花の栽培と育成に努める。
(3) 校内の清掃を徹底させるとともに、奉仕活動などで地域を含めた環境整備の意識を高める。

IV 研究テーマ

1 総合理数コースの推進と指導のあり方について

生徒の実態に即した教育課程の編成を常に検討する。学校設定科目の系統性の検証に努める。コース設置の目的を活かすための週時程外の活動について校内での意思統一を図る。

2 学力向上のための校内体制と指導の在り方について

学習内容の理解を深める動画作成および教員生徒双方から発信ツールについて研究し、I C Tの効果的な学習につなげる。

3 学習活動、特別活動、部活動等を連関させて、生徒の自主的な取り組みを進める指導の在り方について

三つの活動の効率的な指導方法について研究し、教員による質の高い指導および生徒の主体的な活動を推進する。

<特色化推進プログラム（令和5年度）>

5月23日 みどりの架け橋講演会（OB・OG講演会）

『意外に知らない公認会計士の世界～企業や自治体の頼れるドクター～』

講師：小室 将雄 氏 【公認会計士】 本校22期生

7月 7日 特別授業『プログラミングを楽しく学ぼう』

7月13日 特別授業 サイエンス・ダイアログプログラム

『The mathematics of soap bubbles』

講師：Dr. Thomas RAUJOUAN（神戸大学/大学院理学研究科）

7月27日 校外研修『大阪大学豊中キャンパス』 総合理数コース1年全員 2年希望者

8月24日～25日

宿泊校外研修『つくば研究都市』 総合理数コース 2年生（希望者）

10月 4日 特色講演会 『エネルギーについて～特に電気エネルギーについて～』

講師：三澤 毅氏 【京都大学複合原子力科学研究所副所長】

10月20日 特別授業 『科学技術と人の幸せ～Your Choice 未来を知る～』

講師：野澤氏, 沼田 氏 【住友ファーマ株式会社】

11月29日 特別授業 京都大学学びコーディネーター 『「体」の化石と「行動」の化石』

講師：瀬岡 理子 氏 【京都大学理学研究科地球惑星科学専攻2回生】

12月12日 みどりの架け橋講演会(OB・OG講演会) 『緑高から裸でサンフランシスコ市街を走るまで』

講師：浜本 隆三 氏 【甲南大学文学部英語英米文学科 准教授】 本校 27期生

12月14日 特別授業『I Tとエレクトロニクス製品』 講師：山本好彦氏, 岡村 敦氏(三菱電機)

- 12月18日 JICA講演会(1年)
 講師: 中平友彦氏(フィジー) 樋口愛美氏(ラオス) 浦田悠理子氏(モンゴル)
 齊藤弘紀氏(エチオピア) 織田芳孝氏(インドネシア) ※()は派遣国
- 12月19日 特別授業サイエンス・ダイアログプログラム
 『Searching for new ways to make your Lung healthy! My journey
 as a doctor and researcher.』
 講師: Dr. Gusty Rizky Teguh RYANTO 【神戸薬科大学薬学部】
- 1月24日 特色講演会 『健康にかかわる腸内細菌』
 講師: 竹田潔氏 【大阪大学大学院医学系研究科 教授】
- 3月 4日 特別授業サイエンス・ダイアログプログラム 『Fatigue of Metal Structures』
 講師: Dr. Pengjun LUO 【大阪大学 大学院工学研究科 国籍: 中国】
- 3月14日 校外研修 1年生 理化学研究所放射科学研究センター (Spring-8)
 校外研修 2年生 兵庫県阪神北県民局宝塚土木事務所(講義・現場見学)

V 高校生ふるさと貢献・活性化事業で実施する内容

社会の激しい変化に伴い、人と人、人と自然のふれあいが希薄になっている。地域のさまざまな世代の人々や、身近な動植物・自然とふれあうことで、地域社会の一員としての自覚を深めるとともに、自国と郷土を愛する心を養い、個のアイデンティティーを確立する。

- 1 地域での美化活動の実施
- 2 地域文化、現状を把握し、高校生の視点としての「まちづくり」
- 3 地域の行事への参加
 - (1) 生徒会によるスタッフとしての打ち合わせ、意見交換
 - (2) 吹奏楽部、軽音楽部、ダンス部等の地域行事への出演参加
 - (3) 放送部の地域行事への支援活動
 - (4) 美術部及び個人による広報活動
 - (5) 「総合的な探究の時間」において、班別でフィールドワークを行い、研究結果を発表する
- 4 地域に開かれた学校づくり
 - (1) 生徒の活躍を地域広報誌へ掲載依頼をするとともに、本校ホームページでも紹介する
 - (2) 文化祭では、本校生と地域の人々とのオンライン交流等も含めた取組を実施する

VI 高校生就業体験事業で実施する内容

外部講師による講演会・模擬授業や体験活動等を通じて、望ましい勤労観・職業観を育成する。

- 1 卒業生を講師に招き、「みどりの架け橋講演会」(OB講演会)を開催
- 2 大学模擬授業(出前授業)の実施
- 3 本校卒業生による現在大学4年生もしくは同年代での就職者から、上級学校の学び、就職活動等の取組等の実践活動を聞くことにより、職業に対する意識を向上させる(卒業生TALK)
- 4 企業訪問、大学訪問の実施
- 5 インターンシップの実施

VII 高校生キャリアノートの活用に関する内容

社会的・職業的自立の基盤となる基礎的・汎用的能力の育成をめざし、キャリア教育の充実を図る。

- 1 「キャリア・パスポート」・「進路の手引き」の活用から継続的な指導と支援を行う。
- 2 生徒の能力・適正等、個に応じた進路指導を組織的に推進する。

VIII 県立高校魅力アップ推進事業で実施する内容

大学等の研究機関、企業等との連携による、先端技術を活用した探究活動を軸とする教育課程の展開
 総合理数コース、理系の生徒を中心に、大学教授等専門家の指導の下、課題研究の実施や、研究者による講演会の実施や積極的な校外での研修を展開する。